

平成 26 年度全国学力・学習状況調査結果の概要について

浜田市教育委員会

平成 26 年度全国学力・学習状況調査結果の概要についてお知らせします。

今回の調査で測れるのは学力の一部であり、このことを踏まえて、単に数値のみで序列化された過度の競争につながることはないよう留意をお願いします。

1 調査の概要

(1) 調査実施日 平成 26 年 4 月 22 日 (火)

(2) 調査の対象

国・公・私立学校小学校 6 年生 (特別支援学校含む) 全児童

国・公・私立学校中学校 3 年生 (特別支援学校含む) 全生徒

* 特別支援学校及び小中学校の特別支援学級在籍者のうち、下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒や特別支援学校の教科の内容の指導を受けている知的障がい者である児童生徒は、調査対象としない。

(3) 浜田市での調査対象児童・生徒数 ・小学校 438 名 ・中学校 426 名

(4) 調査の内容

- ① 教科に関する調査 ・国語 A (知識) ・国語 B (活用)
・算数・数学 A (知識) ・算数・数学 B (活用)
- ② 質問紙調査 ・児童生徒に対する調査 ・学校に対する調査

2 各教科の平均正答率

* 平均正答率：各学年・教科において、児童生徒個人が正答した問題の割合 (%) を県または市町村単位で平均した値。

(1) 小 学 校

	平均正答率 (%)					
	浜田市	島根県	全国	差(市一県)	差(市一國)	差(県一國)
国語A	72.4	73.6	72.9	-1.2	-0.5	+0.7
国語B	52.4	54.5	55.5	-2.1	-3.1	-1.0
算数A	74.9	76.3	78.1	-1.4	-3.2	-1.8
算数B	53.0	56.5	58.2	-3.5	-5.2	-1.7

(2) 中 学 校

	平均正答率 (%)					
	浜田市	島根県	全国	差(市一県)	差(市一國)	差(県一國)
国語A	78.2	80.2	79.4	-2.0	-1.2	+0.8
国語B	48.9	52.0	51.0	-3.1	-2.1	+1.0
数学A	63.8	66.1	67.4	-2.3	-3.6	-1.3
数学B	58.0	59.1	59.8	-1.1	-1.8	-0.7

3 島根県の結果

小学校6年国語A、中学校3年国語A、Bにおいて平均正答率が全国平均を上回った。小学校6年及び中学校3年数学は全国平均を1.8p～0.7pの範囲で下回った。

4 浜田市の結果

(1) 教科に関する結果の概要について

- 小学校6年、中学校3年ともに国語A、B、算数・数学A、Bにおいて平均正答率が全国平均を下回った。小学校では、5.2p～0.5p、中学校では3.6p～1.2pの範囲で下回った。算数・数学は、小学校6年・中学校3年ともに正答数が多い層の割合が全国に比べ少ない。昨年度からの全国平均との差の推移をみると、小学校では6.3p～4.1p→5.2p～0.5p、中学校では6.4p～1.3p→3.6p～1.2pとなっており、全8教科中7教科で全国平均との差は縮まった。
- 小学校国語では、漢字を書いたり、故事成語の意味と使い方を問う問題が全国平均を上回った。情景描写の効果や表現の仕方を捉えることや活用に関する記述式問題に課題が見られた。算数では、分数の相等及び大小についての理解、立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係など、数量や図形についての知識・理解に課題が見られた。
- 中学校国語では、文脈に即して漢字を正しく書く、辞書を活用して語句の意味を適切に書く、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む、表現技法についての理解など言語についての知識・理解・技能に課題が見られた。また、小学校同様、活用に関する記述式問題に課題が見られた。数学では、度数分布表やヒストグラムなどの資料活用に関することや関数についての基礎的・基本的な知識の確実な習得に課題が見られた。

(2) 質問紙の回答状況から

① 概要について

- 「自分によいところがあると思う。」と感じている児童生徒の割合が全国平均を上回っている。
- ボランティア等による授業サポート（補助）を行った学校の割合が全国平均を大きく上回り、地域の人材を活用した教育や地域と密着した教育活動が行われている。
- 学校図書館や地域の図書館を利用する児童生徒の割合が全国平均と比べて高く、学校図書館活用教育の効果があらわれている。
- 普段の家庭学習時間は全国平均を下回っている。小学校ではTV・ビデオ・携帯電話・スマート

フォンなどのメディア接触時間が全国平均より多い。小中ともに家庭でのメディア対応時間の適正化と家庭学習の充実改善が求められる。また、中学校では家庭学習の課題の与え方について教職員で共通理解を図りながらの工夫改善が求められる。

○学校に対する調査における「総合的な学習において、課題の設定からまとめ、表現に至る探求の過程を意識した指導」の割合が全国平均を下回っており、言語活動の充実を図りながら探求的な学習の推進に工夫改善が求められる。

○国語科、算数・数学科における、「授業の冒頭で目標（ねらい・めあて）を示す活動」や「授業の最後に学習したことを振り返る活動」について、学校がこれらの活動を取り入れていると答えている割合と、児童生徒が認識している割合に差が見られたので、一層の工夫改善が求められる。

② 児童生徒質問紙より *数字は割合(%) ()の数字は全国平均との差

○「自分によいところがあると思う。」

小学校 79.1 (+3.0) 中学校 73.9 (+6.8)

○「昼休みや放課後、学校が休みの日に本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするため、学校図書館・学校図書室や地域の図書館に週1回以上行く。」

小学校 33.1 (+14.4) 中学校 18.9 (+1.2)

▽「普段(月～金曜日)、1日あたり1時間以上家庭学習をしている。(学習塾、家庭教師に教わっている時間も含む)」

小学校 55.8 (-4.2) 中学校 46.7 (-6.9)

・「普段(月～金曜日)、1日あたり2時間以上TVやビデオ、DVDを見たり聞いたりする。(TVゲームをする時間は除く)」

小学校 66.1 (+4.8) 中学校 55.5 (-1.0)

・「普段(月～金曜日)、1日あたり2時間以上TVゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をする。」

小学校 32.5 (+2.2) 中学校 29.4 (-6.0)

・「普段(月～金曜日)、1日あたり2時間以上携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする。(ゲームをする時間を除く)」

小学校 9.0 (+0.3) 中学校 27.1 (-5.6)

▽「前の学年までに受けた授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う。」

小学校 68.7 (-13.3) 中学校 57.1 (-14.4)

▽「前の学年までに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。」

小学校 58.3 (-13.6) 中学校 40.5 (-12.8)

③ 学校質問紙より *数字は割合(%) ()の数字は全国平均との差

○「ボランティア等による授業サポート(補助)を行った。」

小学校 61.6 (+20.0) 中学校 77.7 (+53.5)

▽「総合的な学習において、課題の設定からまとめ、表現に至る探求の過程を意識した指導をした。」

小学校 66.7 (-13.0) 中学校 55.5 (-24.1)

- ・「前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えた。」
小学校 83.4 (+5.6) 中学校 44.4 (-19.8)
- ・「前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った。」
小学校 94.4 (+9.0) 中学校 33.3 (-43.6)
- ▽「授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れた。」
小学校 94.4 (-2.5) 中学校 66.7 (-27.3)
- ▽「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた。」
小学校 66.6 (-25.0) 中学校 66.7 (-22.5)

5 今後の対応

(1) 教育懇話会の実施（10月2日、3日）

各学校長、教育委員、教育長とで各学校から持ち寄った学力調査の分析結果をもとに市としての課題、改善策について意見交換を行う。

(2) 学校図書館活用教育の推進

教職員を対象にした松江市立揖屋小学校への視察研修（10月30日）を実施するとともに、学校図書館活用教育研究指定校を中心に公開授業及び研修会を実施し、情報活用能力育成を図る。

(3) 「浜田市 学校や地域の図書館を使った調べる学習コンクール」の実施

図書館資料を始め、さまざまな情報を活用した調べる学習を普及し、探求的な学習を推進する。（応募 11月17日まで）

(4) 「家庭学習ノートコンテスト」の実施

意欲的に家庭学習に取り組み、家庭学習の習慣を定着させるきっかけとするとともに、学びを定着させたり深めたりするノートづくりのよい事例を共有し、学力向上に役立てる。（応募 2月6日まで）

(5) ネットトラブル対応研修会の実施（12月3日）

教職員を対象として、スマートフォン・iポッド、ゲーム等の問題点について研修し、子どもたちへのメディア接触に関わる指導改善を図る。